

十勝毎日新聞 十勝農業情報ハイライト

生 産

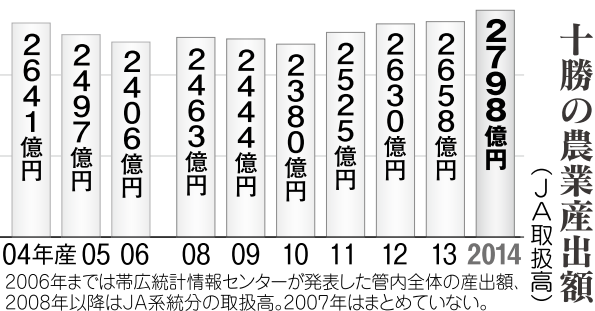
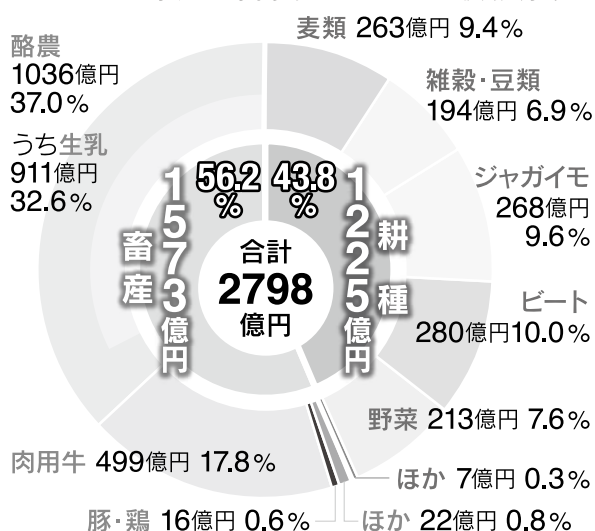
【取扱高】

14年産管内 J A 取扱高2798億円 過去最高、耕・畜に好調

2014年12月24日

十勝地区農協組合長会、十勝農協連、十勝総合振興局は24日午前11時、2014年産農畜産物の十勝管内 J A 取扱高（概算）を発表した。耕種、畜産とも好調で、過去最高だった昨年を大幅に上回る2798億円（前年比5.3%増）だった。2700億円台は初めてで、管内24 J A が目標に掲げる16年度までの生産額2900億円の達成に近づいた。

2014年産 管内24JAの取扱高



ただ、円安などにより飼料、肥料、燃料などの資材価格が高騰しており、農家の所得増には直結しない面もありそうだ。

管内の生産額は06年産までは J A 外の商社系を含めた

「農業産出額」として発表していたが、08年産からは24 J A の取扱見込額になった。14年産について、十勝農協連の山本勝博会長は「過去最高は日頃の生産者の努力のおかげ。目標に一步も二歩も近づいた。生産現場は厳しいが、来年も選ばれる産地を目指して努力したい」と話している。

今年産の耕種部門は、13年産比6%増の1225億円。小麦は春の干ばつなどで収量は下がったが、品質は収穫時の長雨の影響を受けた昨年を上回り、同2%増の263億円。豆類は豊作で小豆の価格は低下したが、収量増で補い、同14%増の194億円。ジャガイモも豊作で生食用の価格は低下したが、加工用・デンプン原料用が好調で同7%増の268億円だった。

ビートは5年ぶりに糖度が16%台に回復、国の交付金が上がったこともあり、同9%増の280億円。野菜は作柄は良かったが、価格が下がったため、前年並みの213億円だった。

一方、畜産部門は同5%増の1573億円と、過去最高だった昨年（1502億円）をさらに上回った。酪農は同3%増の1036億円で、全道で生乳生産が落ち込む中、十勝は前年並みを確保。飼料高などを受けた乳価や国の加工原料向け補助金の上昇が、取扱高を押し上げた。

肉用牛は8%増の499億円。東日本大震災や宮崎県の口蹄（こうてい）疫（10年）の影響で肉用牛が不足し、子牛、枝肉とも高値で取引されている。発表は十勝総合振興局で行われた。